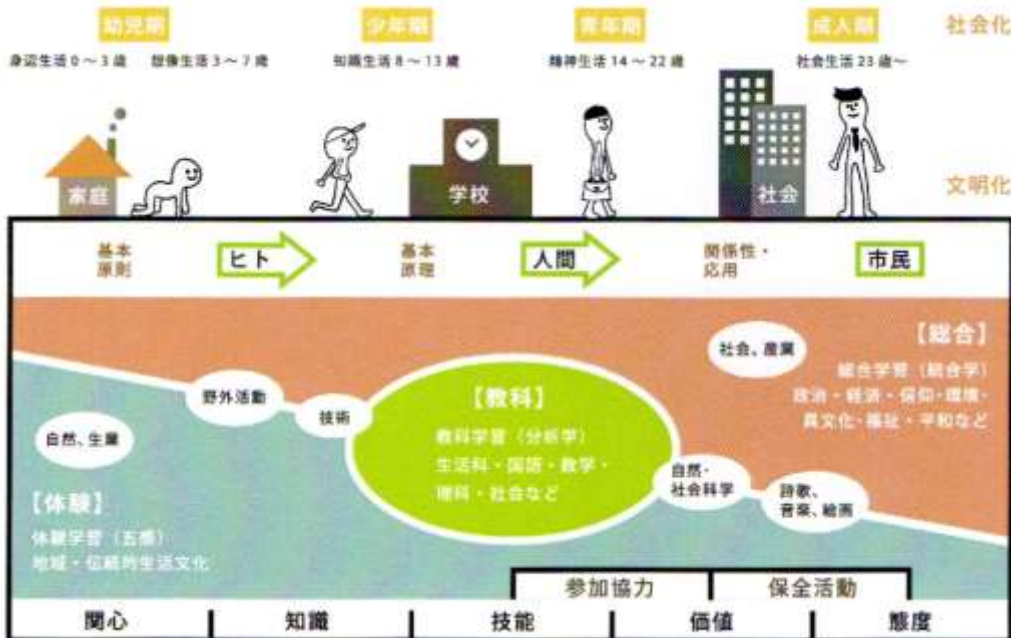


参考資料（木俣提供）： 現場、現物、原体験、追体験 「個体発生は系統発生を繰り返す」（ヘッケル） 質問連絡先：kimatami@u-gakugei.ac.jp

1) 環境を学ぶとは何か： 実践から
環境学習原論を構築する

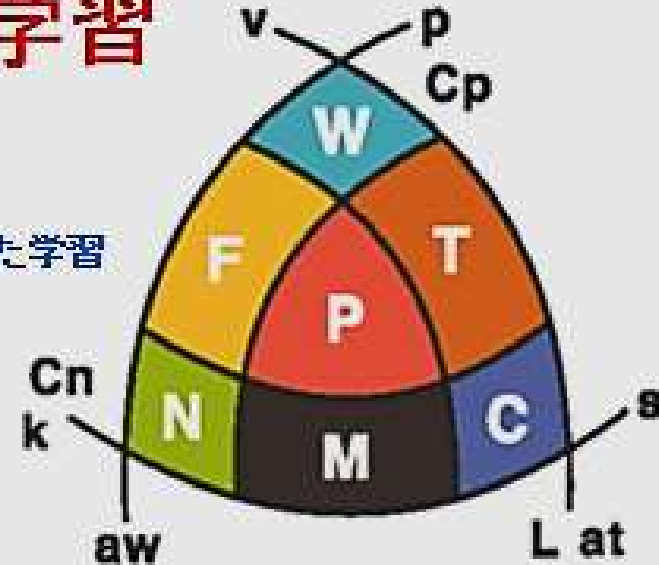
2) 心の構造と機能：
環境課題解決のための**根底的な課題**

3) 未来への希望を如何に創るか：
素のままの美しい暮らしに移行する
Sobibo



ELF環境学習 過程

自然の三相を基本とした学習



：ELF 環境学習プログラムの枠組み

■基本学習プログラム **自然学N**、**文化学C**、**世界観W**

■関連学習プログラム 生産M、思考T、感情F

■統合学習プログラム 遊戯P

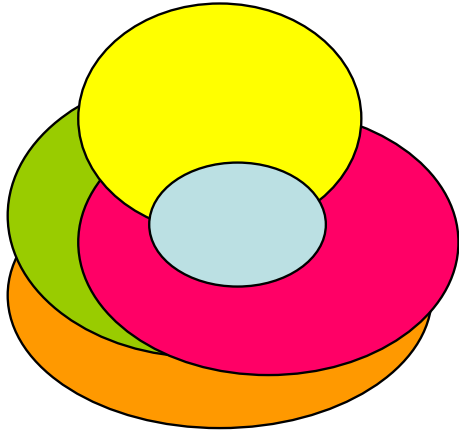
■行動学習プログラム 地域L、協働Cp、保全Cnの各学習プログラム

■環境教育目標 関心aw、知識k、技能s、態度at、参加p、低価値v

直接体験：自然に帰る、生業を学ぶ、地域で動く。間接体験：読書で歴史に学ぶ。

自然と文化を学び、考える

心の構造：狩猟採集民と都市民の比較

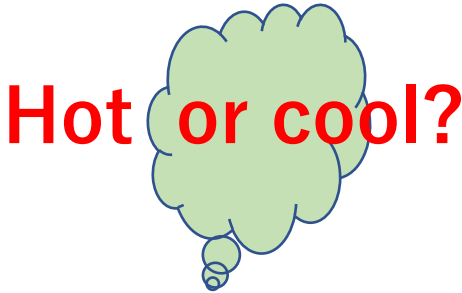


狩猟採集民の心 現代

伝統的暮らしを守る先住民・山村民の
統合する心

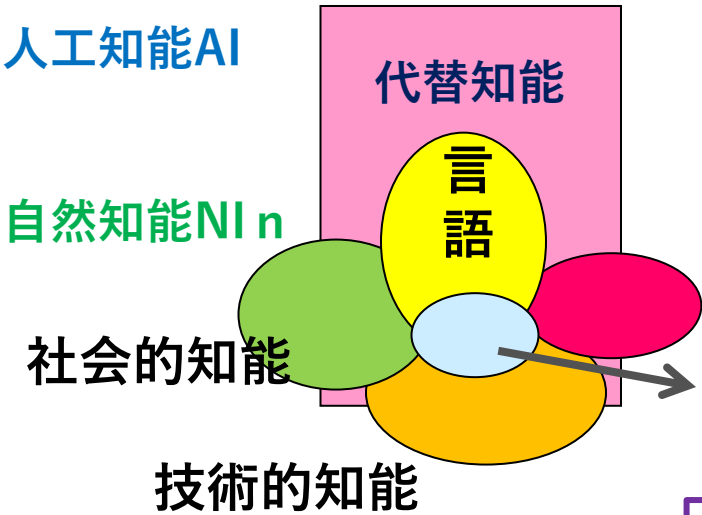
(Mithen1996)
(木俣2012)

統合する心



分散、解体縮小と電子
頭脳AIへの置き換え？

退行的進化：自己家畜化



都市民の
分断し縮小する心

博物学的知能
一般知能

第四紀人新世

環境学習理論を学ぶ

将来的課題としては、環境学習を基盤とする教育課程を研究する。その成果によって教育方法と内容を根底的に移行する。

<https://www.milletimplic.net/ethnobotany/pelnewfinal.pdf>

- 緊急課題としては環境科の内容を検討する。

閉塞した学校社会や地域社会に、楽しい学びから希望を創る。

環境学習を教育課程の基盤とするように、社会に働きかける。

生活科、総合的学習の時間、探求学習の系譜を大事にする。

- 自然学校、農学校、冒険学校で、自然、伝統的な生業を原体験し、心の構造（Nin自然知能）と機能（感性）の文化的進化を系統的に追体験する。
- 自己家畜化を緩め、生きる技能（生業）を身に付け、自ら働き、遊ぶ楽しみを創る。

子どもや長老にも敬意を持ち、共に遊び、学び、楽しく暮らす。